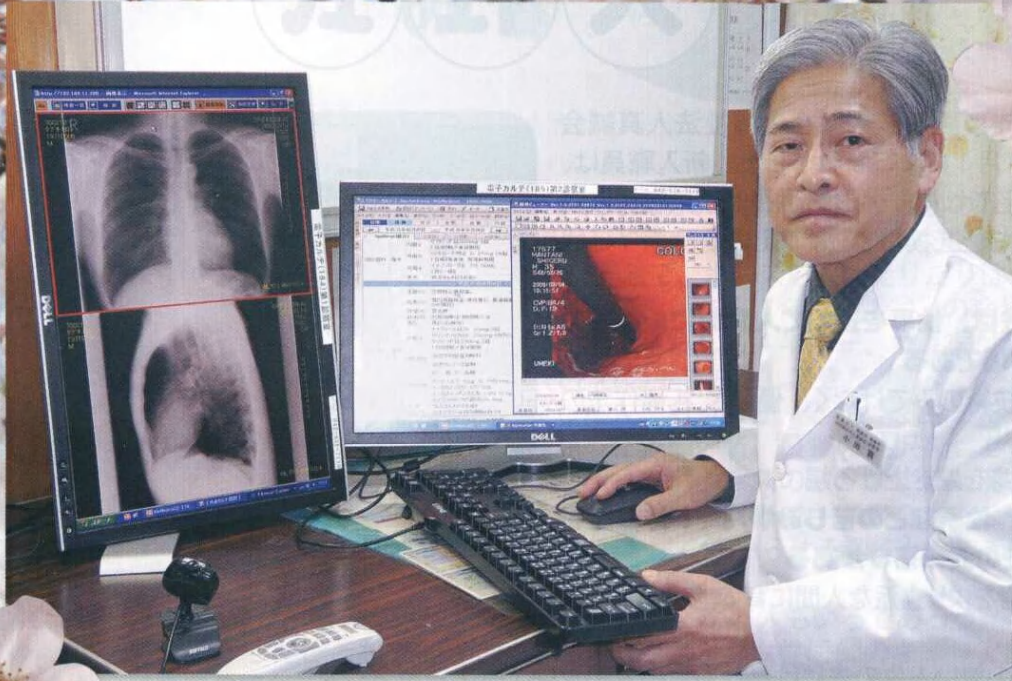


# ホスピタウン便り

発行責任者 ホスピタウン事務局  
VOL55 平成21年4月



## 電子カルテ本格稼働 —真誠会の電子カルテ—

医療法人 真誠会  
社会福祉法人 真誠会  
理事長 小田 貢

昨年の平成20年4月より、電子カルテの導入を本格的に決定し職員教育を始めました。同年8月より電子カルテ専用のパソコンを現場に配置し、医事業務から少しずつ電子カルテに移行しました。9月からは、外来での電子カルテの部分運用、10月から本格稼働となりました。

当初はもちろん時間がかかり、紙カルテ以上に待ち時間が長くなり患者さんにご迷惑をおかけしました。

しかし、その後スタッフ全員が電子カルテに習熟し、紙カルテの時よりも待ち時間が短くなり、なかでも診察終了から患者さんが処方を受け取られるまでの時間が飛躍的に短縮しました。

血液の検査も、心電図も、レントゲンもデータを電子カルテに入れ込むことができ、患者さんにはパソコン画面を通してわかりやすく説明することができます。また検査データも時系列でグラフ化して説明できるので、患者さんが自分の状態を明確に把握できるようになりました。

平成21年1月からは病棟でも電子カルテが始動しました。病棟での電子カルテは外来よりも複雑でまだ完璧とは言えませんが、平成21年3月の時点ではかなり順調に行っていると思います。病棟のナース部門で、電子カルテの操作が不十分な面もありますが、昨年4月から始めた電子カルテ導入は、一応社会に対して“電子カルテ本格導入に成功”と宣言できる状態となりました。

経済的（費用の面）、あるいは技術的に非常に高いハードルの電子カルテ導入でしたが、10年先を考えれば他の医療機関に先駆けて導入することが真誠会の姿であると思いき進みました。今振り返ってみるとやはり電子カルテに踏み切ったよかった、今さら紙カルテには戻れないという思いと、今までの真誠会のネットワークと相まってさらに強力な地域医療ネットワークの構築が具体的に目の前に広がり始めました。

### 「電子カルテの問題点」

厚生労働省は医療機関での電子カルテ化を強く推進しておりますが、実際に電子カルテを導入してみると、いくつかの問題点があります。

- 1) 膨大な投資額
- 2) 医師、スタッフの電子カルテ習得、習熟までの移行期間の膨大な時間と心身の疲労
- 3) 医師の電子カルテ入力のための継続的肉体的、精神的ストレスなどです。

なかでも高いハードルは膨大な経費であり、実際に電子カルテが普及するためには少なくとも現在の半分以下の値段になるか、あるいはそれと同等価値の政府からの補助がなければ電子カルテが一般的に普及することは困難だとも思います。



# 平成21年度 医療法人、社会福祉法人真誠会 入社式

平成 21 年度医療法人、社会福祉法人真誠会入社式が 4 月 1 日に行われました。新入職員は、全員で 13 名でした。小田理事長は新入職員に以下の内容のことを挨拶で述べました。



新入職員13名!これからがんばります!!

### 1. 真誠会は、仕事を通して人間的に成長する勉強の場である

- ・知識、技術のみではなく、優しさ、礼儀作法の勉強の場
- ・自分自身を磨き上げる場

### 2. 勉強、仕事などの苦しみやハードルはあるが、その先に喜びがある

- ・自分自身をより立派な人間に育て、また人に尽くす喜び
- ・苦しみの無い人生の先には喜びも、感動もない

### 3. 患者さん、高齢者の方々はガラス玉のように不安定でもろいものである

- ・目を離さないで、しっかりと見守り、病態をきちんと把握し、安全に次の人に引き継がなければ、人の命のガラス玉はすぐに落ちて粉々になってしまう

### 4. 人間性、優しさ、知識では日本で一番になることも可能である

- ・心を育てることにお金はかからない
- ・優しい気持ちさえあれば、だれにも負けない看護、介護が可能

### 5. 本当に充実した人生を送る、すなわち「生」を充実させるためには「死」を勉強しなければならない

- ・死に行く人たちの看護、介護をするためにも、まず学ばなければならないことは、「死」を理解すること

真誠会では就職後も各種資格試験へのチャレンジを強く進め、具体的に受験指導、実技指導などを積極的に行い受験者の支援をしています。

その甲斐があり、今年も各種資格試験でたくさんの合格者がありました。

#### 平成21年度 合格者数・累計 (平成21年4月現在)

職 種	合格者数	累 計
ケアマネージャー	4名	41名
介護福祉士	14名	114名
精神保健福祉士	1名	1名
認知症ケア専門士	8名	38名
社会福祉主事	4名	14名



平成 21 年 3 月 25 日、第 2 回鳥取県西部医師会 認知症症例検討会ケースカンファレンスの勉強会で、小徳看護師長が「認知症に伴う BPSD に対するの支援」という演題で、グループホーム青松庵における認知症ケアの経験を発表しました。この勉強会は医師が対象ですが、残念ながら医師の間ですら認知症に対する専門的なケアの重要性とか、認知症の行動心理学的症候 (BPSD) 定義: 「認知症患者にしばしば出現する知覚や思考内容、気分あるいは行動の障害」に対するケアが有効であるということがまだ十分には理解されていない印象を持ちました。

今後、認知症が増えて行くことを考えると、地域の臨床医の認知症に対する理解の重要性を強く感じました。



# 「第2回 鳥取県福祉研究学会」研究発表

## 地域包括支援センターが構築する地域の支え合いネットワーク —「弓浜助け合いネットワーク」の展開—

弓浜地域包括支援センター 係長 小坂 一

弓浜地域包括支援センターは、弓浜地域の6町で高齢の方々のさまざまな相談をお受けし、また介護予防に取り組んでいます。このたび、弓浜地域包括支援センターが地域の皆様とともに取り組んできた、地域の支え合いネットワーク「弓浜助け合いネットワーク」の取り組みを、平成21年2月21日に開催された第2回鳥取県福祉研究学会で研究発表させていただきましたところ、**地域福祉部門での学会奨励賞**をいただきました！



地域福祉部門で学会奨励賞を受賞しました!  
(小坂:後列左から2番目)

鳥取県福祉研究学会は「福祉に関わる者が広く連携し、これからの福祉のあり方を研究・研鑽し…もって鳥取県域の福祉社会の発展向上を図る」ことを目的に設立された学会で、弓浜地域包括支援センターでは毎年、研究発表に取り組んでいるところです。

今回の研究は、これまでの地域の皆様の取り組みをまとめさせていただいたものであり、「弓浜地域」そのものが、高く評価していただけたものと思っています。

ありがとうございました!そしてこれからも、どうぞよろしくお願いします!!

### 口腔ケアは高齢者の自立と 生活の質を向上させる出発点

介護老人保健施設弓浜ゆうとぴあ 看護師長 絹川裕子

**肺**炎は日本で死因の第4位で、その肺炎で亡くなる方の9割以上が65歳以上の高齢者であり、高齢者の肺炎の中でも最近とくに注目されているのが誤嚥性肺炎です。高齢になると生理的機能が衰えるため、自分の

唾液や消化管内容物と口腔内細菌などが誤って気管に入り込むこと(誤嚥)で発症します。寝たきりの状態を長期化させる原因となりますので予防が重要となります。

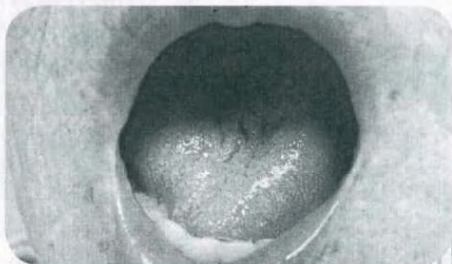
真誠会では①口腔内ケアによる口腔の清潔を保つ②低下した嚥下反射の回復③利用者様個々にあった食事形態の提供をすることが重要と考え看護師・歯科衛生士・言語聴覚士・管理栄養士などの多職種のチームで誤嚥性肺炎撲滅プロジェクト委員会を平成20年2月に設立しました。摂食・嚥下機能に関する機能訓練(嚥下体操)と口腔清掃の知識・技術の向上を図るため様々な角度からの評価を行い、誤嚥性肺炎のリスクの高い利用者様30名(各施設10名)を対象を絞って評価を行なった結果、期間中、誤嚥性肺炎の発症を抑えることができました。それだけでなく、声かけに反応が鈍かった方が、開眼や返事をされるなど、また、眼に活力が感じられるようになりました。いろいろな方が施設見学に来られますが、嬉しいことに口臭などの異臭がないというご意見をよくいただきます。

この度、2月21日に第2回鳥取県福祉研究学会が開催され、この成果を発表する事ができました。

この学会は1)高齢者福祉2)障害児・者福祉3)児童福祉4)地域福祉の4部門に分れますが、特に高齢者福祉は関心が高く21題の発表がありました。座長の鳥取県老人保健施設協会副会長さんからも、これからの高齢社会の中で元気を維持するためにも口腔に刺激をあたえることであり、施設の中で「寝たきり」を作らないためにも多職種でのケア提供をされたよい結果である、とのお言葉がありました。誤嚥性肺炎の発症がない様、今後も全職員で継続した口腔ケアと口腔リハビリを提供させて頂き、ご利用者さまが元気で、または脳に刺激となり活性化につながる様、努力していきたいと考えています。



皆さんで口腔ケアを行い、活気が出てきました!



お口の中がとってもきれいになりました☆



# 米子ホスピタウン・弓浜ホスピタウン 健康クラブ

## 皆さ〜ん! 健康クラブで運動をしてみませんか?



皆さんで  
タオル体操をしています

「健康クラブ」では専門の知識を持った健康運動指導士が、皆様の健康維持・増進のお役に立てるよう運動指導を実施しています。米子市長寿社会課から委託されている「がいなミットトレーニング事業」をはじめ、高齢者の方を中心に、毎日楽しく安全に運動が出来る場で、パワーリハビリテーション・エアロバイク・ウォーキングマシーンなど、無理なく運動をして頂いています。毎日様々な運動教室も行っています。その他、イベントも開催しており、この春には緑水湖でのウォーキングを開催しました。

皆様も運動の必要性は感じておられると思いますが、「なかなか一人では続かない・不安・何をしたいのか、わからない…」という声が現状です。

皆様も「健康クラブ」で運動をしてみませんか? 運動習慣は健康の基本です。「健康クラブ」の無料体験等、お気軽にご相談ください。スタッフ一同お待ちしております!

### ◇河崎:米子ホスピタウンゆうとぴあ広場

ご利用時間: [午前] 8時~10時30分 [午後] 15時~18時

※日曜・祝祭日を除く

お申込:支援本部受付 ☎0859-24-5666 (担当:大森・宮脇)

### ◇大崎:弓浜ホスピタウン2000年ホール

ご利用時間: [午前] 9時~10時30分 [午後] 15時~18時

※日曜・祝祭日を除く

お申込:弓浜支援部受付 ☎0859-48-2331 (担当:松本・田中)

### ○会費制

- ・1ヶ月 4,200円 (税込)
- ・3ヶ月一括 12,000円 (税込)
- ・半年一括 21,000円 (税込)

## 卓球ブーム



お二人ともラリーが  
とってもお上手!

本年2月より真誠会健康クラブに卓球ができるようになったところ、予想以上に好評で瞬く間に卓球愛好家が集まりました。そして米子ホスピタウンでは、待ち時間がでるほどになったので、急速、卓球台を一台増やして対応することにしました。この多くの皆さんは若いころ卓球をよくされていた方や、卓球の選手だった方で、若いころを思い出して楽しんでおられます。

また卓球は健康クラブにある他の運動、筋力トレーニングなどでは養われない俊敏性、反射能力を養うのにはとてもよい運動といえます。年齢が上がったときのバランス感覚の維持、俊敏な動きを身につけることが出来るので、危険回避行動に関してはとても意味のある運動であると位置付け、今後も進めて行く予定です。

## 「食べられる力」を支援していきたい

「食べること」は人生の中で大きな喜びの一つであり、最後まで口から食べたいという願いは誰も同じであると思います。私たちのまわりには、疾患や加齢によって飲み込みが悪くなったり嚥む力が低下し、満足に食事ができない方が数多くおられます。真誠会では、そのような方にも、美味しく安全な食事をしていただきたいという思いで、嚥下障害食への取り組みを始めています。嚥下障害のある方でも飲み込みやすいように、食材や調理を工夫し、見た目にも満足できる食事を提供しています。



栄養課 係長  
伊藤 朋子

また、在宅生活での食事支援として通所を通しての栄養相談や、訪問栄養食事相談にも取り組んでいます。栄養士が直接在宅へ訪問し、対象者様やご家族様の思いを受け止め、環境や状況などを確認しながら、住み慣れた自宅での生活をより「その人らしく」できるよう、食生活を通じた支援をしています。

病院から施設、施設から在宅へと切れ目のない「食べられる力」の支援を目指してがんばっています。何かお悩みのことがありましたら、どうぞお気軽にご相談下さい。



## 認知症専門デイサービス



### 地域に開かれた童謡の里を目指して

童謡の里は5月1日で、ご利用者様、ご家族様、地域の皆様、関連施設の皆様のお陰様を持ちまして、開所3周年を迎えようとしています。

開所3周年を迎えるに当たり、以前より、毎週火曜日14時から開催しておりました、「童謡を歌う会」をバージョンアップさせたいと考えています。全職員が楽器の演奏を

出来る様に練習をし、童謡、唱歌を歌われる際に披露させて頂きたいと思っております。新しい取り組みとして、音読を取り入れた脳の効果的な運動も出来るようにと考えております。

年間を通してご利用者様と一緒に取り組める季節行事が実施出来る様、全職員で企画・立案しておりますのでお楽しみ下さいませ。季節行事、童謡を歌う会の実施の際は、地域の皆様に発信させて頂きます。地域の皆様の参加を職員一同、心よりお待ちしております。



### みんなでおいしい野菜づくり♪

弓浜脳活性クラブ真誠会若竹庵は、今年でようやく4年目を迎えます。若竹庵では周りを自然に囲まれ、日当たりの良い明るいフロアの中で定員12名の少人数でのケアを行っております。

若竹庵には建物のすぐ隣に畑があります。そこで、ご利用者様と野菜や花を植えて、園芸療法の取り組みを行っております。草取りではご利用者様のほうが手際が良かったり、野菜の育て方もスタッフのほうが教えていただくことがあります。草が生えていないかと畑を気にしたり、収穫した野菜で何を作るか考えたり、実際に調理した料理を食べたりと様々な場面に関わることができます。その中で、その人らしく過ごしていただけたら良いと思っております。



## 小規模多機能センター



### 地域の皆さまが気軽に立寄れる「ふる里」

「ふる里」地域交流スペースを活かして皆さまの心の拠り所となりたい

地域の皆さまの心の拠り所として、昔のように誰もがどこからともなく集まって温かい人の輪ができる場所になることを願い創られた「ふる里」。お陰様で地域の皆様方に支えられて、満3周年を迎えようとしています。

地域の皆様方と日常的に交わすあいさつや自然な付き合いを通して、そのふれあいに温もりを感じました。自治会活動に参加しながら地域の一人としてそのつながりを大切にしていけるふる里であり続けたいと思っております。

毎年開催する「地域交流・ふる里まつり(10月)」「もちつき大会(12月)」は、地元自治会及び地域ボランティアの皆様方の力強い支援とご協力を得て、盛大な地域交流の祭りイベントとなりました。

3月25日には「歌謡劇場」第一回を開催し、和田地区の浜歩会と花みずき隊の皆様にご協力を得て、地域の皆様方多数来場の中で、懐かしの歌・踊りステージのひとつときを楽しんでいただきました。ふる里ではこれからも地域で暮らす方々の支えとなるよう利用者様・ご家族様のニーズを大切に、職員一丸となって地域の皆さまと共に「ふる里」が心の拠り所となるように努めていきたいと思っております。







### いつまでも若く力強く!

#### ◇介護予防センター真誠会とは?

介護予防の方だけ集めて専門的、効率的な介護予防プログラムを行い、いつまでも介護を受けないような健康増進を図ります。

病気を予防するだけではなく、老化に伴う生活機能低下のサインを早くみつけて適切に対応していくことで、元気にいきいきと暮らしを維持することができます。

運動の効果は、種類・頻度によって様々です。例えば、筋力強化運動により、筋肉や骨、関節を強化し、歩行が安定し、転倒予防が出来ます。または、有酸素運動により、心肺機能の強化、持久力 UP につながります。

#### ◇介護予防運動プログラム

- ★安全で効果的な体操や運動を指導します。
- ★転倒予防プログラム(体幹バランス)：バランスを補う体操等を指導します。
- ★筋力強化：マシントレーニングなども実施します。
- ★有酸素運動：エアロバイク、各種体操を実施します。
- ★体力測定、個人プログラムの提供：リハビリや運動指導の専門スタッフが体力測定を行い個人の状態にあった体操・運動プログラムを作成します。



みんなでボールで体操です



### 懐かしい唱歌をいっしょに歌いませんか?

今年から2月の第2、第4月曜日の午後2時より、米子ホスピタウン1階ゆうとびあ広場において、ボランティアの石原敦子さんの選曲と伴奏による「唱歌を歌う会」を開催しております。懐かしい明治、大正時代の唱歌や童謡、軍歌などを通所、施設の利用者の皆さんと楽しく歌っています。



ボランティア石原敦子さんの伴奏にのせて合唱です♪

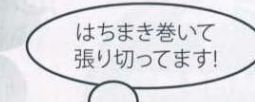
利用者の皆さんは口々に「懐かしい」、「小学校の頃歌ったわ」など言われて、昔を懐かしんでおられます。障害があって発語がはっきり出来ない方も、一生懸命口を動かし歌われる姿を見て、「この会をしてよかった」と本当に石原敦子さんには感謝しております。その時代を生きられた方々にしかわからないものがあります。日ごろ、このような唱歌を歌う機会をつくり、真誠会の職員として利用者の皆人が自ら歌い、感動することを大切にしていきたいと思えます。

これからも、このような、心と心とがふれあう催しを企画していきますので、是非ゆうとびあデイケアにおいてくださいませ。



### 通所リハビリテーション真誠会・ゆうとびあ合同 春高風船バレー大会

「春高バレーって？」から6年が過ぎました。真誠会デイケアとゆうとびあデイケアが合同で出来ることはないか、利用者の方が意欲を高め、「今日は頑張った」と感じていただけることはないかと考えたのが「春高バレー大会」の始まりでした。



はちまき巻いて張り切ってます!

春高バレー大会は、皆さんがご存知の「春の高校バレー全国大会」にかけ合わせ、本当は、「春高齢者風船バレー大会」です。

今年で、6回目になる風船バレー大会は、ゆうとびあデイケアが優勝!

ここ最近、ゆうとびあデイケアが連続して勝っています。成績は、現在引き分けです。

6回目の風船バレー大会を終え、今年もたくさんの方が活躍されました。勝ち負けは、意欲が高まり、心身の最高のリハビリテーションと考えます。


リハビリテーションは、訓練・マッサージ的イメージが強く、機械や専門職と一対一でなければリハビリを受けていないと思いがちなところがあります。しかし、最高のリハビリは、社会生活・身近な生活の中に存在しています。参加していくことが大切です。

利用者の方々がそれぞれに主役になり、参加していただく通所サービスの提供を目指します。

来年は是非、皆さんも「春高バレー大会」にご参加ください!お待ちしております!!



## サービス特集


  
富益しあわせ  
デイサービス  
(富益)


## 『富益から発信!地域交流の輪!』


富益しあわせデイサービスでは、静かな住宅地と広く自然な松林に囲まれた中にあります。近くに民家やバス停があり、地域に根ざした開かれた施設を目指し、特に地域の方々との交流に力を入れています。

行事では、近隣の保育園・小学校との交流、毎月のピアノや大正琴などのボランティアの方による演奏や演芸、周囲の松林の環境を活かし、季節に合わせた屋外での行事を行い、様々な行事の中で地域の方々との交流させていただいています。また、ご利用者の方に日頃、カラオケで鍛えた歌声を披露していただき、ボランティアの方々と共に、盛り上げていただいています。

また、隣接しているグループホーム青松庵や和田町にある小規模多機能センターふる里のご利用者様とお茶会、演芸会、お食事会等で常に相互に交流を図り、大変賑やかなひとときを過ごしています。

その他、富益しあわせデイサービスでは、(月)～(土) 13時～14時の間、喫茶『縁庵』を開店しています。ご利用者の皆様と共にコーヒーやお抹茶を楽しみながら、多くの方々との交流を持つことのできる場を目指しています。美味しいコーヒーや抹茶(お菓子付き)をご用意させて頂いていますので、お近くをお通りの際には、どうぞお気軽にお立ち寄り下さいませ。


  
ふる里と合同で  
桜まつりをしました


  
通所リハビリ  
テーション  
弓浜ゆうとびあ  
(大崎)


## ゆとりの空間で、楽しい仲間と一緒に過ごす・・・


私たち通所リハビリテーション弓浜ゆうとびあでは、365日リハビリを必要とされる方々が、在宅で安心した日常生活を送ることができるよう、そして一人おひとりの日常生活が豊かになるよう努めています。


ダイケアフロアからは島根半島が一望でき、中海が広がっています。山並みに沈む夕日は大変美しくきれいです。環境は、どこの施設にも負けません。

充実のリハビリテーションには、専門のリハビリスタッフが個別に対応し家庭での生活が充実できるよう支援しています。機能的なリハビリの他に、園芸や創作活動、囲碁、将棋などの趣味活動、パズルやプリントなど脳活性のためのリハビリにも力を入れています。円滑な連携で健康管理にも努め、快適に日常生活を送っていただくためのお手伝いを真心こめておこなっています。

楽しい仲間とゆとりの空間で、私たちはご利用者様の頑張る気持ちを応援します!!!


  
外でのお食事は  
気持ちがいいなあ〜♪


  
ゴズ釣り中…釣れるかな〜!?!


  
通所介護  
弓浜真誠会  
(大崎)


## 何事も楽しく!元気に!!

弓浜デイサービスでは、真誠会の理念のもと、ご利用者の皆様それぞれに楽しみや役割を見つけて頂き、自宅でも楽しく元気に過ごしていただける様に、サービスを創造し提供しております。

「楽しさ、快さ」を感じることから、生きがいや意欲を引き出していただく、そのための各種アクティビティ、行事、クラブ活動、リハビリなどを各種取り揃えています。

また、習字、合唱、ピース手芸、川柳など各種クラブ活動も行っています!平成21年4月から民謡の会(土曜日、月2回程度)も始まりました。

見学、体験はいつでも承りますので、ぜひ実際の目で見て体で体験して下さい。


  
習字クラブでみんな真剣!!



## 介護老人福祉施設ピースポート

### 第4回 家族会介護教室

## 講演会「施設での看取りケア～「死」への段階について～」

平成 21 年 3 月 21 日、介護老人福祉施設ピースポートで第 4 回家族会が開催されました。

施設で過ごされるご利用者様に「よりよい最期」とは何か……ご家族様にとっても不安な思いで過ごされていることが多くあります。ご家族の方より、「死」の段階について分からない……亡くなった直後はどうしていいのか判らない……との相談が寄せられます。そこで、今回の家族会では、小田理事長を講師として、医師の立場から看取りとしての「死」をテーマにした講演会が行われました。普段は、医師の立場として健康長寿について講演を行っていますが、今回は、ピースポートのご家族から、あえて「死」について話をしてほしいとの強い要望があり講演を行いました。

小田理事長は、「メント・モリ」(死を想え)、人は生まれたときから死を背中に負っている、死はだれにも平等におとずれるものである、人生の後半になれば死の準備学を、死を考えることにより、よりよく生きることができると、先人の残した文献を引用して講演を行いました。

多くの参加者は、普段あまり考えていない「死」について勉強が出来てよかったとの感想をいただきました。また、再度「死」に関しての講演が聞きたい、というご意見も多数いただきました。機会がありましたら、次回も「看取り」や「死」について講演を行いたいと思います。



## 介護保険のモラルハザード

アメリカの住宅サブプライムローンの破綻をきっかけに、世界金融危機となり、破綻企業の経営者が自家用ジェットで公聴会に出席したり、巨額のボーナスを受け取るなど、企業経営者のモラルハザード(倫理観の欠如)が問われています。その背景には、金融危機の度に政府が救済の手助けするために、今度も政府が救済してくれるだろう、という思い込みが金融機関の無責任体質を膨らませたことにあります。モラルハザードとは、元来は保険用語で自動車保険を掛けた人が、保険があるため乱暴な運転となり、事故件数が増加し、結果として保険掛け金の増加を招き、保険制度の破綻にいたるといふ、反道徳的行為を引き起こすという意味に用いられます。

医療の現場でも見られます。今年の3月で鳥大病院の救急救命センターの専任医師4人が退職という事態が起こりました。本来は医師会の夜間・休日診療所で診療が望ましい、緊急性のない軽症の患者が、救急救命センターに集中すれば、本来の役目である重症救急患者の診療の役目が果たせずに、救急医は過労状態になり、救急搬送受け入れが出来なくなり、救急体制が機能しなくなります。医療保険の普及や、医療サービスへの過度の期待から、患者にとって病気の不安や利便性もあり、コンビニ感覚で受診の風潮が救急医療体制の崩壊をきたすことにもなりかねません。

少子高齢化社会の医療介護のために、介護保険制度が始まりました。しかし、福祉介護の現場では、要介護認定高齢者の増加に比して、老健、特養などの入所施設の定員は不足しており、介護の必要な人が、直ぐに入所やサービスを受けられず、入所待機者の増加が問題となってきました。

介護保険料が徴収されている保険者から見れば、入所給付を受けるのは当然の権利ですが、全員が殺到すれば、混乱に拍車がかかり、保険料は上がり保険制度自体が機能しなくなります。入所施設は介護保険者にとって、共有財産であり、緊急時のセーフティネットの役割があります。各自が介護の程度に応じた介護負担を分け合い、介護保険の有効利用を共通認識することが求められます。



## 老人保健施設の日常



介護老人保健施設  
ゆうとびあ

施設長 中下英之助



## 異動の ごあいさつ



ケアハウス  
リバーサイド  
看護師長 奥田那美恵

小規模多機能センター真誠会ふる里から異動して参りました。4月1日の弓浜ホスピタウンは桜の花がつぼみをほころばせ、ちらほらと咲き始めていました。施設周囲はぐるりと桜並木、久しぶりの私を温かく優しく迎え入れてもらったようでとても幸せな気持ちになりました。桜の花は人生の旅立ちの花、人の心をリセットして新たなスタートの応援をしてくれる花といわれています。玄関に一步足を踏み入れると、定礎には「愛と希望と」と刻まれています

ケアハウスに入居の皆様が、第三の人生をより豊かで健康に暮らしていただくため、このゆとりの空間でご自身の人生設計をされるにあたり、「愛と希望と」を分かち合いながら、傍ら健康維持のお話や、四方山話のお相手をさせていただこうと思っております。微力ではありますがお役に立てばと新年度にあたり自らに誓いました。どうかよろしく願いいたします。



健診センター  
副センター長  
矢倉ツヤ子

体を使って話をします。たいていの問題が解決します。この分ではまだまだ当分走ることでしょう。

昨日の帰宅路は黄砂のせい、街が霞んでいました。もうすぐツバメもやってくるでしょう。

忙しくも季節はしっかり感じていたい欲張りな私です。どうぞよろしく願いいたします。

この度、奥田師長の後任として4月1日より、小規模多機能センター真誠会ふる里に努めさせていただくことになりました。

小規模多機能は地域の方々と密着した中で、地域の良さと介護職員の提供する専門的な知識、技術をコラボレーションして提供するサービスとして皆さんに期待されています。

奥田師長、金田地域担当課長の築き上げてこられた地域の方々との信頼を大切にしながら、地域の方に気軽に立寄っていただき、楽しく過ごしていただける地域のサロンとして、皆さんの中に浸透していただけるよう職員一同努力していきます。

この度、青松庵の管理者をさせていただくことになりました山根です。

青松庵は、自然な松林に囲まれた中にあり、和風の建物とのんびりした環境の中で、ご利用者の方々や料理を作ったり、一緒に掃除をしたりして接することが出来るので、大変嬉しく思っております。

地域とのつながりも密接であり、協力しながらの体制の中で自分の役割や交流が大切になってくるとも痛感しています。

真誠会に入社して9年になります。今回グループホームでの勤務は初めてですが、老人保健施設、通所リハビリテーションで働いてきた経験を生かし、またグループホームでの新しい発見を大切に精進していきます。これから、わからない事も多くご迷惑をお掛けすることもあると思いますが、よろしくお願い致します。

グループホーム青松庵  
管理者・主任  
山根祥子

## 就任の ごあいさつ



透析施設オアシス  
看護師長 北尾 仁

真誠会で勤務して今年で5年目を迎え、この度4月より透析施設オアシスの看護師長となりました、北尾仁です。

まずは自己紹介をしたいと思います。最近の趣味は登山とカメラです。去年は屋久島で10時間歩き、縄文杉を見て感動してきました。今年の夏は富士山に登るのを計画しています。カメラに関しては始めたばかりなどで腕は・・・ですが、自分自身に余裕がなければ、趣味も仕事も本気で取り組みませんし、「慎重で計画的」にをモットーにやっています。

そろそろ師長としての抱負を述べたいと思います。当透析施設は、高齢で社会的にも多くの問題を抱えた患者様や、他施設での受け入れが困難な患者様に対して、透析医療が安心して受けられるような働きかけがなされております。

これから、山陰地区において透析生活に不安を抱えた患者様や、ご家族様の相談窓口として支持されるような透析室を作っていきたいと考えております。一生懸命に頑張っていきますので、よろしくお願い致します。



# 辻田耳鼻咽喉科



辻田耳鼻咽喉科  
院長 辻田 哲朗

## ViVa! ガイナーレ!

今年の2月11日に職員6名を引き連れて、横浜の日産スタジアムまでサッカーW杯最終予選・対オーストラリア戦をわざわざ見に行ってきました。サッカーの試合を生で見るとはこれで2回目です。座席は2階席の後ろの方でしたので、選手が豆粒のようにしか見えませんでした。それでも7万の大観衆と一緒に日本代表のサッカーの試合を見れて興奮しました。

一口に7万といいますが、スタジアムの行き帰りはそれぞれ道路は大渋滞でした。スタジアムへは新横浜駅から歩いて行きましたが、その時から道は人で溢れかえり、またそれを当て込んだサッカーグッズを売る屋台がずらりと並んでいて、まるで祭りの縁日気分でした。その中には、トルコ人やイラン人とおぼしき人たちもいて言葉巧みな日本語で客引きをしていたのには驚きました。また、わずかですがオーストラリア人も応援に来ていて、彼らの数は少なかったですが、体は大きいし黄色のTシャツを着て大声を出しながら陽気に歩いていたので、日本人よりも存在感があったので、日本人から見たらちょっとうらやましく思っていました。

さて、肝心の試合です。結果はご存じのように、0対0のスコアレスドローというなんか不完全燃焼でした。ボクはサッカーのことはあまり詳しくないですが、なんか日本のサッカーって気まじめすぎます。テレビで見ていた時はわからなかったのですが、生で上からゲーム全体を俯瞰して見るとよくわかります。オーストラリアは明らかに疲れていて動きが悪かったので、かなり守備に重きを置いて引き分けでも、よしという感じだったので、点を取るのはかなり難しかったのですが、日本はとにかく攻撃が単調で、素人のボクが見ても、これじゃあいつになっても点が入らんわなあ~と思ってしまいました。日本人の気まじめな個性がよく出ていました。もうちょっと悪ガキというか、相手から「こいつは、アホやけど何するかわからん」と言うようなのが、一人か二人いるともう少し日本は勝てるかも。ただし、途中から入った大久保にその片鱗が見えてちょっと期待できました。

さて、話は変わりますが、辻田耳鼻咽喉科は、今年からガイナレ鳥取の公式スポンサーとなりました。これはたまたま、社長の塚野さんと一緒に食事する機会があり、流れでそうってしまったのですが、それでもまだ弱かったSC鳥取時代から応援はしていました。野球のWBCでもそうですが、優勝してくれて日本人に勇気と元気を与えてくれました。ガイナレもそれと同じようにJリーグに上がってくれたら鳥取県民の大きな励みになるし、たった60万しかない小さな県でもやればできるといふ自信が持てます。近頃は、不況に名を借りて地方が切り捨てにされています。医療とて同じです。

このままでは、医療過疎になって地方には医師がいなくなってしまう。その中で、ガイナレは鳥取県に活力を与えてくれる起爆剤になってくれるのではと期待しています。なかなか鳥取まで応援に行くのは難しいですが、それでも米子の東山陸上競技場でも5回ほどゲームが組まれています。



ガイナレ鳥取  
ガンバレ!





# いえはら歯科



いえはら歯科  
院長 家原 猛

## 09 春

今年も例年より早めの桜の季節がやってきた、はずだったが、大陸の強い寒気団のせいか冬に逆戻り。ここ寒い日が続いている。数日前まで、明るい陽射しや南からの風が運ぶ緩んだ空気に、ウキウキ、心がつい弾んだ。まだ、少し早いのに鏡の前でTシャツを着て、ポーズを決めたりたりはしないけど、……本当は、する。「アラフィフ (アラウンド 50) のTシャツ」、平成 21 年版の「○○の冷や水」である。

ある新聞に同世代の女性医師のコラムがあった。大学を卒業して 4 半世紀、女性医師に特別の支援もなかった時期に卒業した。それぞれのやり方でそれぞれの生き方をしてきた。

独身の人、離婚した人、パートの医師の人、開業した人、ちゃっかりと可愛く生きた人、過酷な勤務でバーンアウトした人、障害を持った子どもを授かった人……皆、最善の選択をしてここにいる。彼女はその都度、自分のやりたいことよりも、ワークライフバランスの取りやすい状況を優先させてきたという。そして、幸いにも 3 児に恵まれた。子育ては大リーグ養成ギブスのようなものだったという。このギブスは、優先順位をつける訓練、速読、仕事を早く終わらせる訓練と手抜き家事のトレーニングに役立った、と。

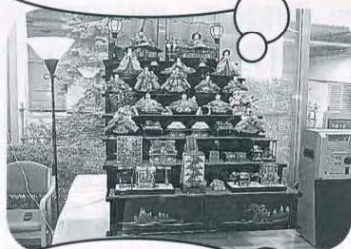
我々の世代も 50 歳を超えた。今の状況に不満の人も満足している人もいるであろう。でもまだ道は半ば、もう一度、できなかったことをやる時間はある。昨今、若い女性医師のキャリア支援は盛んに行われ始めたが、子育ての終わった 50 代の中年女性医師を活用しようという動きは聞かない。と思っていると、開業している友人から「子供も大きくなったので、念願の大学院に入りました」と年賀状が届いた。

50 代の皆さん、キャッチボールからでも始めて、大リーグ養成ギブスの効果を確認しませんか? と結んでいる。

試練は人を鍛える。経験は心に少し余裕をもたらす、かもしれない。人間力、人の力・能力は日々培われる。彼女に触発されて大リーグ養成ギブスの装着経験はないが、傍で見たことはある(?) 私にも第 2 幕目の人生創造の勇気が湧いてくる。(実は、私なりにちょっと前からいろいろと仕込みはしてある。)「年甲斐」とか「既成概念」に縛られず、楽しく、軽く羽目を外す勇気が人生に彩りを添えてくれる。皆さんと一緒に楽しい時間を過ごせるよう。今年の桜を、これまで以上に春爛漫な気分で楽しめそうな気分である。



皆さんで飾ったひな人形です



ひな祭りの風景です♪  
皆さん楽しそう♪



## ケアハウス リバーサイド (大崎)

### 一緒に作り上げた 雛祭り

ケアハウスリバーサイドでは、季節に応じた行事を入居者様と一緒にしています。3 月には、初めて大きな七段飾りのひな人形を入居者様と一緒に飾りました。ひな人形の小物や道具をどこにどのよう飾るのが、説明書があっても、入居者様、職員が一緒になって、ああでもない、こうでもない話しながら、また、ひな人形の思い出話をしながら完成させました。これまではケースに入った人形を飾っていたので、入所者様、特に女性の方々に大変喜んでいただきました。ひな祭りでは、入居者様と一緒に作った三色餅と甘酒を食しながら、演芸を楽しく観賞しました。ひな祭り後も、デイケアやデイサービスのご利用者様の見学が多数あり、春の風情を感じていただけたのではないかと思います。

他にも、畑にジャガイモを植え、6 月に皆様と一緒に収穫する予定にしています。

私たちは、職員だけで取り組むのではなく、入居者様の長年の経験に基づく知識を借りながら、一緒に行事を作り上げて参ります。



## 新著紹介 「いのちのバトン 97歳のぼくから君たちへ」



「この本は、ちひろさんの絵と私の詩とのいのちについてのコラボレーションです。」と表紙の帯に日野原先生がお書きになっているとおり、命の大切さを子どもたちにもわかりやすく表現してあります。

この絵本は発売と同時に、全国の書店で品切れになるほど売れています。

いwasakiちひろさんの可愛らしい絵が心を和ませてくれます。

皆様も是非ご一読のうえ、ご家族、お知りあいの方へプレゼントされてはいかがでしょうか。



出版社ダイヤモンド社  
定価 (本体1100円+税)

日野原先生は毎日のように、精力的に講演会活動をしていらっしゃいます。日野原先生は本年 97 歳ですが、先生のスケジュールは 50 歳台の人でもこなさきれないぐらいの過密スケジュールです。



セカンドライフ  
ガイドブックに  
掲載される!

日本海新聞社にて

### 小田理事長×浦上克哉先生 対談取材

## 「認知症と向き合うために—治療と介護の最前線」

平成 21 年 3 月 12 日、新日本海新聞西部本社にて西部本社寺谷代表の司会で、鳥取大学医学部保健学科教授浦上克哉先生と小田理事長の対談が行なわれました。対談のテーマは「認知症」です。浦上教授はこれから認知症が多くなるので、認知症についての啓発活動をおこない、住民のだれもが認知症を理解し、その人を暖かく受け入れることができる街づくりをしたいと思いを語られました。また、認知症にならない地域活動をしなければならない、と述べられました。小田理事長は、認知症を理解するためには、優しい心をもつ（その方中心の優しさが必要であり、認知症に対する理解を深める）ことは同時に、高齢者、障害者、弱者に対する優しさや、具体的な対応が出来ることにつながると語りました。

認知症の方を受け入れる街づくりは同時に、どのような方に対しても優しい街づくりになると、認知症に対する意義を述べました。

この対談の様子は、新日本海新聞西部本社の「セカンドライフガイドブック」と、日本海新聞の特集記事として取り上げられることになっています。また、NPO 法人がいなネットの編集でも、対談の様子を中海テレビで放映される予定です。